

今月のフレンドズ

後藤工業株式会社
代表取締役
後藤 和正さん

専務取締役
後藤 真人さん



お客様のニーズに応える少量多品種のバネづくりにこだわり続け、今年で創業70周年を迎える後藤工業株式会社。技術を磨き、他社との差別化を図りながら成長を遂げてきた会社の想いを、代表取締役の後藤和正さんと専務取締役の後藤真人さんに伺いました。

少量多品種にこだわり さまざまな業界に貢献

戦前からバネの製造を行っていましたが、戦争により工場が焼失し、戦後すぐは大手バネメーカーの代理店として中小企業向け製品を販売していました。その後、お客さまから少量のバネを短納期でつくりたいかとのご相談が増えてきたこともあり、ニーズに応えるために再び自社でバネ製造をスタートしました。

少量多品種にこだわり、多岐にわたる要望に応え続けた結果、現在は、当社の飛躍を支えたパワーステアリング用バネをはじめとする自動車関係のほか、航空宇宙関係、産業機器関係、弱電関係など、幅広い分野にバネを納めています。なかでも、旅客機やヘリコプター、宇宙ロケットなどに使用されるバネは人の命を守るため極めて高い精度と耐久性が要求されます。日本に数多く存在するバネメーカーのなかで、機体メーカーへ直取引で納品できるのは当社を含め4〜5社と聞いています。

航空宇宙分野への参入と それを支える精密な手巻きバネ

そもそも航空宇宙分野参入のきっかけは、1954年に当時の川崎航空機（現・川崎重工）へ航空機用にバネ材を用いた留め具を開発して提案したこと。この製品自体は採用されませんでした。当社の技術力や品質の高さが評価され、航空機用スプリングの受注へと繋がりました。他社とは異なる分野への積極的な市場開

1個からでも応える手巻きバネが、会社の未来を切り開く

- ▶ 少量多品種と短納期で、お客さまのニーズに応え続け、大きく成長
- ▶ 航空宇宙分野への参入が示した、手巻きバネの品質と価値

話のポイント

拓が実を結んだ結果だといえます。また、航空機用部品の厳しい品質条件をクリアしている最大の要因が、創業当初から変わらない、一つひとつ職人が巻いていく手巻きバネの存在。その精密さはもちろん、試作品などの少量生産におけるハンドワークのスピード感は、他社には負けない部分です。機械化による量産も上手く組み合わせながら、お客さまのオーダーに最も適した方法を臨機応変に選択できることは当社の強みだと思います。

過去の失敗から学び
先を見据えた展開を続ける

急速に業容が拡大したバブル期に、目の前の業務に追われ、設備投資や人材育成が疎かになり、仕事が増えた時に価格競争力がなくなってしまう経験があります。この反省を踏まえ、当社では先を見据えた取り組みを継続してきました。

現在は、航空機関係の品質マネジメントシステムJISQ9100の取得や、電動化などが進む自動車業界の変化に対応した付加価値製品の地盤を整え、今後の受注拡大を目指しています。また、同時に力を入れているのが技術の継承です。特に手巻きバネをつくる職人の育成には長い年月を要するため、ベテランと若手が2人1組となり、師匠と弟子の関係性でお互いの成長を促す仕組みを導入して、確実に技術継承を進めています。社員一人ひとりが成長することで会社としての価値を高め、80年、90年、100年と、この先の節目を自信を持って迎えられる企業でありたいと思います。



▶ バネの品質は当社が自信を持っている部分。ISO9001/ISO14001の取得のほか、三菱重工業株式会社や川崎重工業株式会社など、納品先各社の品質マネジメントシステムも取得しています。



▶ 手巻きバネをつくる職人として一人前になるには、最低でも10年はかかると言われています。最年長は76歳、最年少は18歳と、祖父と孫ほど年齢が離れたメンバー間で技術継承を進めています。



▶ 少量多品種の製造を続けてきたため、これまでに製造登録されているバネは13万件以上。コイルバネや板バネといった種類はもちろん、サイズのバリエーションも豊富です。

今月の表紙説明

手巻きバネの制作をする作業場での一枚。現在は12名の職人が、精密さを必要とする航空機用バネなどを月に約30,000個つくっています。一つひとつの製品に対して、品質の確認までをすべて手作業で行なっています。

Company Data

【会社概要】

- ▶ 創業 1938年(法人設立 1948年)
- ▶ 所在地 名古屋市千川区名駅3-17-34
- ▶ TEL 052-561-5551
- ▶ URL <http://www.goto-group.co.jp/index.html>
- ▶ 事業内容 各種スプリングの製造・販売